

# オトギリソウ

*Hypericum erectum*

オトギリソウ科



オトギリソウ

## 名前の由来

平安時代にある鷹匠の弟が、この草から鷹の傷薬を作ることを他の鷹匠に漏らし、鷹匠がその弟を斬り殺した、という伝説に基づく。葉にある黒点は弟の血痕といわれる。漢字名：弟切草

## 形態的特徴

高さ20~60cm、全草無毛で茎は円柱形で明確な稜線はない。葉は滑らかな狭卵形で柄はなく、対生し、2枚が茎に向かい合っつく。葉の縁、内部に黒点がある。茎の上部は枝分かれし、その先に黄色で径1.5~2cmほどの花をつける。花びらは楕円形で5枚つき、縁に黒点がまばらにある。花の中心の花柱はその下の膨らんだ子房と同長かやや長い。花びら（花弁）の下につくがく片の先はあまりとがらない。

花は1日だけ、しかも日中にしか咲かない。

類似種と見分け方：オトギリソウ科の他の植物。

オトギリソウ科には多数の種類があり、互いによく似ているため見分けは難しい。しかし分布域が限られるものもあるので、オトギリソウは低地から山地に広く生えてよく見られるということと、上記の形態的特徴と実物をよく照らし合わせて見極める

## 生育環境・分布

山地や平地の日当たりのよい草地などに生育する。

分布：国外分布は、南千島・樺太南部・朝鮮。

国内分布は、北海道から琉球。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、山地や平地の日当たりのよい草地などで見られる。

## 生活史

開花時期：7~8月。開花までの年数：不明。寿命：多年草。

## 他生物との関わり

花には虫が訪れる。

## 興味深い話

■花がついている時期の全草を乾燥させて煎じたものが、止血、鎮痛、利尿などの薬用に用いられる。

## 配慮事項

生育している環境全体が重要である。

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■								
結実期					■							



オトギリソウ。円内は葉裏、黒点がある

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類  
ワシ・タカ

## 参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙譲 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本II」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「名前といわれ 野の草花図鑑3」杉村昇 偕成社 1987

「薬草図鑑 野生編」山岸喬 北海道新聞社 1992

「北海道夏~秋の花 絵とき検索表III」梅沢俊 エコ・ネットワーク 2001